



蕨ブランド認定品

# WARABI BRAND

—— 蕨を伝える「自慢の逸品」をご紹介します ——



蕨市

# 蕨を伝える自慢の逸品 「蕨ブランド認定制度」とは

蕨ブランド認定制度は、蕨らしさ（歴史、ストーリー性など）を有したものを審査し、品質も含め一定基準を満たしたものを蕨ブランドとして認定する制度です。認定品を推奨することにより、蕨ブランドの普及と市のPRへとつなげていきます。

対象は、市内の事業者が、蕨らしさを有した企画で製造または加工し、一般消費者に販売される民芸品・食料品等です。

平成28年5月から7月まで募集を行い、寄せられた9事業者24件の申請品を、蕨ブランド認定審査会において、専門家や各分野で活躍する審査委員の皆さんが、地域性や独自性、将来性などの観点から総合的に審査し、5事業者5件を認定しました。

認定期間は3年間で、市内外のイベントへの出展をはじめ、市の広報紙やホームページ、マスコミへの情報提供など、さまざまな媒体を使って、認定品を積極的に発信していくほか、ふるさと納税の返礼品としても活用していきます。

蕨ブランド認定品

## Contents 目次

株式会社ワイアンドシー IBIZA双子織バッグ	4
有限会社上田衣料 蕨上田オリジナル着服	6
株式会社ブラスト工房 蕨硝子	8
有限会社クチュールカワムラ 蕨双子織ショルダーバッグ	10
わらびりんご生産管理団体 わらびりんごサイダー	12
MAP	14



## 「蕨ブランド認定制度」創設にあたって

平成28年度、新たに創設した「蕨ブランド認定制度」は、蕨の特色を活かした優れた商品を蕨ブランドとして認定し、その発信を通じて、地域産業の振興を図っていくとともに、市のPRにつなげていく制度です。認定にあたっては、よりよい商品の認定につなげるため、審査を2段階で実施し、一次審査での審査委員の意見等を踏まえて、申請事業者は、蕨商工会議所の支援を受けながら、申請品の改良を行い、完成度を高めて、最終審査に望んでいただく方法をとっています。

私も主催者として参加した審査会では、厳正なる審査を行い、その結果、5事業者5件を認定いたしました。どれも蕨の特色を活かした、蕨のPRに大いにつながる商品ばかりです。また、認定された事業者の皆さんは、お客様の声を大事にし、信頼と実績を積み重ねてこられました。この蕨ブランド認定品パンフレットには、認定品の魅力もさることながら、そんな事業者の皆さんの熱意も紹介しております。一人でも多くのかたに認定品を手にとっていただき、愛着を持っていただくことで、更により良い商品へとつながっていくものと感じております。このパンフレットがその一助となれば幸いです。



平成29年2月 蕨市長 頼高英雄





## 素材を生かしたものづくり お話のできるバッグ

株式会社ワイアンドシーは、平成27年で創業50周年を迎えた株式会社イビサの子会社として、IBIZAブランドのバッグ・小物を製造している会社です。革の仕入れから生産、販売、アフターケアまでを一括で行うIBIZAは、「素材を生かしたものづくり」を基本コンセプトに、素材の持つ特徴を最大限に生かし、一つひとつ丁寧に人の手で作り上げています。

天然の革には一枚一枚個性があり、同じ種類のバッグでも表情が違います。革をじっくり吟味し、その魅力を最大限に引き出せるバッグへと仕立てあげる。「でも、作り手の元を離れていくときのバッグはまだ70%。お客様が愛着を持って使ってくださいと、100%のバッグが完成します」と柔らかな表情で話す、IBIZA創業者でワイアンドシー代表取締役の吉田茂さん。こうして出来たバッグにはそれぞれストーリーがあり、ショールームに来ていただいたお客様と販売員が商品を通じて会話を弾ませる。「このバッグ、実はですね…」、そんな「お話のできるバッグ」は、愛用していただくことでお客様になじみ、深い味わいや艶とともに新たなストーリーを紡いでいきます。



26,000円(+税)



32,000円(+税)



38,000円(+税)



11,000円(+税)

## 双子織との融合 粋でモダンな風合い

元々は革の卸問屋から始めた吉田さんの目に留まったのは、平成26年5月27日に掲載された双子織の新聞記事。面白い布地があると海外までも買い付けに行く吉田さんは、すぐに布地を取り扱っている蕨商工会議所へ。細い糸で織られた双子織の鮮やかな縞模様を目を引かれ、「双子織復興のお役に立てれば」と、早速、商品開発を行いました。

和との融合は試行錯誤の連続。素材の良さを最大限に生かすため、オーソドックスなデザインからワンポイント使いまで、吉田さんを筆頭にスタッフでアイデアを出し合いながら、試作を重ねました。こうして仕上がった粋でモダンな風合いのIBIZA双子織バッグは、ワイアンドシーのみでの限定生産。1点物も多く、試作品も含め、これまで生産した商品は完売となるなど、お客様から高い評価を得ています。

なお、IBIZA双子織バッグは、銀座ショールームにお越しいただくか、蕨商工会議所運営の「蕨双子織特設ページ」からご購入いただけます。



手仕事を支える道具類



豊富な革サンプル



IBIZA銀座ショールーム

### 株式会社ワイアンドシー

住所 埼玉県蕨市塚越2-11-20

電話 048-434-1002

ホームページ <https://futako.saitama.jp/item/ibiza/>

※蕨商工会議所「蕨双子織特設ページ」イビサ商品一覧

営業時間 平日 午前9時～午後5時

※ワイアンドシーでは、販売は行っていません。

## Interview

常々、何か新しいことはできないか、面白い布地はないかと模索していたところ、蕨市の伝統織物「双子織」との出会いがありました。会社が蕨市内にあるのも何かの縁。双子織の復興と地域の活性化のお役に立てればとの思いで生産を手がけています。

IBIZAは、お客様の声を大事にし、お客様に育てていただいたブランドです。これからもお客様とともに、より良い新しい物を作っていきたい。

IBIZAのコンセプトは、お話のできるバッグ。お客様が双子織に目を留め、興味を持っていただければ、更に会話が弾みますね。

株式会社ワイアンドシー  
代表取締役 吉田茂さん



認定品

有限会社上田衣料

蕨上田オリジナル鳶服

# 昭和43年創業 鳶職人が厚い信頼を寄せる老舗

落ち着いた色合いの鳶服に、ワンポイントの「蕨上田」の赤い刺繍が目を引きまます。塚越にある作業衣屋・有限会社上田衣料は、昭和43年創業の老舗です。縁あって創業した蕨をPRしたいと、蕨を冠した「蕨上田」ロゴを作成し、平成13年に商標登録しました。

「うちの商品を買ってくれた職人さんは、蕨の字が読めるし、書ける」と笑顔で話すのは、代表取締役の上田明さん。鳶職に特化した店づくりを行い、メーカー顔負けの豊富な品揃えを誇る上田衣料には、仕事帰りの職人さんをはじめ、休日には北関東や新潟からの来店も少なくありません。創業以来、モットーとするのは「職人さん応援団」。お店に来た人たちが何を欲しがっているのか、きちんと耳を傾ける——。その積み重ねが、職人さんから厚い信頼を寄せられている鳶の専門店としての地位を確立してきました。そうした実績から、道具類には「蕨上田」のロゴが入った、メーカーとのコラボアイテムも多数あります。

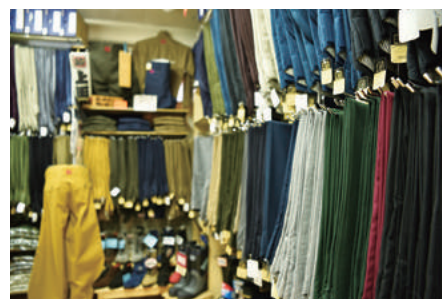
まさに「蕨上田」は鳶業界から蕨をPRする切り込み隊長です。



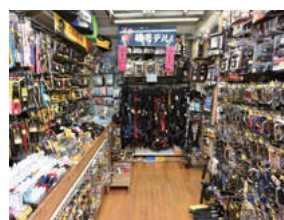
上下セット12,370円(+税)～



さりげなく主張する蕨上田ロゴ



着やすく落ち着いたカラー展開が特徴



所狭しと並ぶ道具類



店頭キャラクターは上田さんがモデルだとか



遊び心あふれる和名のカラー

## 時代に左右されないカッコよさを提案

蕨上田オリジナル鳶服は全て国内縫製。職人さんの声を第一に素材や機能性にこだわり、彼らがカッコいいと思うモノを提案していく——。こだわりは時代に左右されないカッコよさ。細身のデザインが主流の現在、蕨上田では、あえてスタンダードな太さをベースとしています。色は紺を基調に、派手すぎず誰でも着こなせるように。その上で、粋を意識した商品づくりを行っています。その一つがズボンの丈の長さ。蕨上田定番の「超々ロング」と呼ばれるロング丈のズボンは、七分丈が主流だった当時、「粋に穿きこなしてもらいたい」と、上田さんがいち早く提案したモノ。今では他のメーカーでも主流となっています。

また、鳶服の色は、上田さん自ら選定しており、ときには染織の段階から携わることもあるとか。そうして並べられた商品を手にとってみると、面白いことに色の種類が和名で付けられています。「うちでは、黒は夜明けと呼んでいます」と上田さん。新しい色ができると、和名辞典を手に取り、スタッフと和気あいあいと命名するそうで、蕨上田の鳶服には、遊び心もあふれています。

## Interview

鳶服が好きで、素材にこだわり、形にこだわり、そして、蕨にこだわり営業してきた上田衣料。そのこだわりが評価されての蕨ブランド認定は、たいへんうれしいと同時に、身の引き締まる思いです。

時代とともに職人が働く現場も変わっていく。これからも職人さん応援団として、彼らの声に耳を傾け、変わることを恐れず挑戦していきたい。一昔前に、「いつかはクラウンに。」というキャッチコピーがあったけれども、「いつかは蕨上田を。」そんな風に職人さんに思ってもらえる粋な商品を作りたいですね。



有限会社上田衣料  
代表取締役 上田明さん

有限会社上田衣料  
住所 埼玉県蕨市塚越2-3-13  
電話 048-442-0295  
ホームページ <http://store.shopping.yahoo.co.jp/tobiwarabiueda/>  
営業時間 平日 午前8時～午後8時  
日・祝日 午前9時～午後8時



認定品

株式会社ブラスト工房

蕨硝子

# 更にひと手間加えた 新しいサンドブラスト加工

北町にある小さな工房——。平成15年創業の株式会社ブラスト工房では、サンドブラストという、圧縮空気で砂を吹き付けてガラスを彫刻する手法を用いて、記念品などオーダーメイドを中心に月60件のガラス工芸品を製造しています。

今回認定された「蕨硝子」被せガラス・ロックガラスは、代表取締役で職人の佐藤成久さんが約1年の試行錯誤の末、開発したオリジナルブランドです。

被せガラスとは、透明なガラスの上に色の付いたガラスを重ねた多層構造のガラスのことで、江戸切子などの切子細工として親しまれています。

「蕨硝子」は、国産の被せガラスを使用し、通常のサンドブラスト加工では、加工面がスリガラス状のざらざらした手触りになってしまう仕上がりを、加工後に更に熱処理を加えて表面を少し溶かすことによって、質感をより滑らかに、スリガラスよりも透明感を出した、ワンランク上の美しいガラス工芸品となっています。

ガラスの色は、銅赤色、瑠璃色、紫色、緑色、青色の5タイプ。

価格は、シングル5,000円、ペアセット8,000円（+税）



蕨硝子 三味線を弾く骸骨



蕨硝子 骸骨の花火見立て



河鍋暁斎の落款

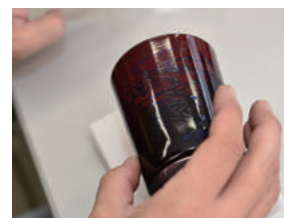
## デザインは河鍋暁斎作品をモチーフに使用

皆さんは河鍋暁斎という画家をご存知ですか。幕末から明治にかけて江戸・東京を拠点に活躍した暁斎は、神仙画や美人画など正統派の絵から、妖怪や骸骨が踊るユーモラスな戯画など、あらゆるジャンルの作品を描き、天才絵師と称賛されました。そんな暁斎の曾孫が創設し、作品を多数所蔵する美術館が蕨市にあります。

蕨硝子のデザインは、蕨の貴重な地域資源である河鍋暁斎記念美術館\*のご協力の下、同館所蔵作品の中から骸骨（三味線を弾く骸骨／骸骨の花火見立て）をモチーフにしました。暁斎の下絵を忠実に再現したデザインには、より繊細な加工技術が求められます。ユーモアあふれるガイコツの横には暁斎の落款。また、背面には、和文様「流紋」を取り入れ、ゆったりとした時の流れを表現しました。

なお、その生涯でさまざまな作品を残している河鍋暁斎ですので、今後も暁斎作品をモチーフにしたデザインバリエーションを増やしていく予定です。

※公益財団法人河鍋暁斎記念美術館：開館＝午前10時～午後4時（木曜日、毎月26日～末日は休館）  
ところ＝蕨市南町4-36-4 問い合わせ＝TEL048-441-9780



加工前の被せガラス



圧縮空気で砂を吹き付けて加工

## Kyosai Kawanabe

現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい  
河鍋 暁斎  
天保2年(1831)  
～明治22年(1889)

### 株式会社ブラスト工房

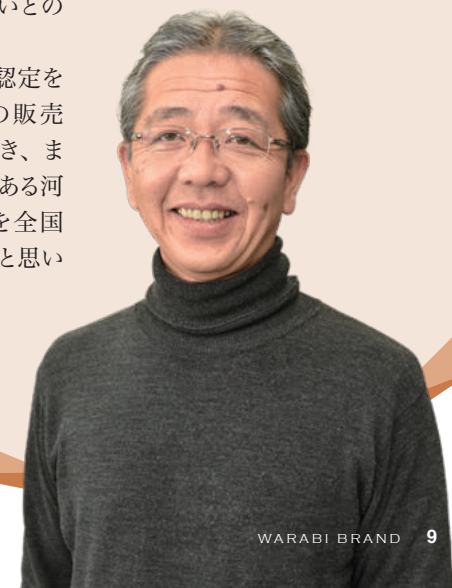
住 所 埼玉県蕨市北町3-6-2  
電 話 048-475-4839  
ホームページ <http://blastkoubou.co.jp>  
営業時間 平日 午後1時～5時

## Interview

日本で一番小さな市・蕨市で出来た、小さな工芸品ブランド「蕨硝子」を通じて蕨をPRしたい——。そんな思いで商品開発を行い、ブランドロゴを商標登録しました。

河鍋暁斎の多彩な作品の中から、骸骨をモチーフにしたのは、若年層に人気がある骸骨を使ったデザインにすることで、暁斎を知らない人にもぜひ、その魅力を知ってもらいたいとの思いからです。

蕨ブランドの認定を機に、蕨硝子の販売数を増やしていき、まちの地域資源である河鍋暁斎や蕨市を全国に発信できればと思います。



株式会社ブラスト工房  
代表取締役 佐藤 成久さん



認定品

有限会社クチュールカワムラ  
蕨双子織ショルダーバッグ

## 双子織復興を目指して 伝統的な物を 日常に寄り添うかたちへ

蕨銀座商店街の一角に、ひと際目につく「蕨双子織取扱店」と掲げたのれん——。「今では、こののれんを目印に来店するお客様が増えました」と話す、有限会社クチュールカワムラ代表取締役の川村みつ子さん。平成5年から洋裁店を営んでいる川村さんに、市内の有志から蕨の伝統織物を復活させたいとの声がかかったのは、平成16年のとき。「手触りはしっかりしているのに絹のような光沢がある」と、細い糸で緻密に織られた双子織の生地にすっかり魅了された川村さん。

「伝統的な物は、すばらしい細工が施されているのに、普段使いがしにくい。だからこそ、日常に寄り添う提案をしていきたい」と、娘の吉村宏美さんと二人三脚でデザインの試行錯誤を重ねました。

こうして生まれたショルダーバッグは、デニムなど他の布地と組み合わせることで、軽くて丈夫に——。和風カジュアルなデザインは男女を問わず、年配の方だけでなく若い方まで、幅広い年代から好評です。また、1本1本ハンドメイドのバッグは、長い間使うことで手触りが良くなり、双子織とともに独特な風合いが出て、使用者の愛着がわく商品となっています。

価格は8,800円（+税）



NEW! (2018年新作)

## 双子織の発信基地 小物類も充実

双子織を一人でも多くの人の手に触れてもらいたい——。その一心で商品づくりを行うとともに、蕨商工会議所の「双子織みらいプロジェクト」の委員も務め、イベントでのPRなどにも積極的に参加している川村さん。双子織が浸透するにつれ、お客様の評判も徐々に高まり、「小物類も作ってよ」と要望が届くようになりました。

ショルダーバッグだけでなく、洋裁店としての技術を生かし、洋服やコートをはじめ、帽子やブックカバー、コースターなど、取り扱っている双子織商品は20種類以上。「時代とともにお客様の好みも変わる。ニーズに合わせたデザインを提案していきたい」と、年に4点ほど新しいデザインを生み出しているほか、オーダーメイドで1点物を作ることもできます。

また、双子織を全国に発信するため、異業種との商品開発にも挑戦するなど、双子織が生活のさまざまな場面で目にする機会を増やそうと意欲を燃やしています。

伝統的な物を日常に寄り添う提案を——。双子織の発信基地として、親子二人で営むクチュールカワムラの商品から目が離せません。



商品は全てオリジナル



豊富な双子織の生地



充実の双子織コーナー

有限会社クチュールカワムラ

住所 埼玉県蕨市中央3-2-9

電話 048-445-4305

ホームページ <http://couture-kawamura.com/>

営業時間 午前10時~午後7時(水曜日定休)

## Interview

双子織の復興に携わるようになり、その魅力を一人でも多くの方に知ってもらえればと、商品づくりを行ってきました。今では、当店のバッグを街で見かけることも増え、長い年月のなかで、双子織が浸透してきていることを実感しています。

これまで、良い物を作り続けていれば、自然と広まっていくものとの認識でしたが、お客様から「もっとお店のPRをしてよ」とお叱りを受けることもあり、知ってもらうための努力、PRの重要性を痛感しております。今後はより一層、双子織のまち蕨をPRしていきたいと思っています。



有限会社クチュールカワムラ

代表取締役 川村みつ子さん



認定品

# わらびりんご生産管理団体 わらびりんごサイダー

## 日本一早く実がなる藤生まれのりんご 地域で愛される 数量限定のサイダー

6月下旬——。日本一小さな市・藤の街なかを、小さなりんごが赤く染めます。「わらびりんご」の愛称で親しまれている日本一早く実がなるりんごです。

錦町の故・吉澤正一よしざわ しょういちさんが約20年の研究・開発を重ね、昭和56年に誕生した藤生まれのりんごは、平成21年の市制50周年を機に、地域の宝として広めていこうと、市民団体や農家の有志の皆さんが本格的な育成に取り組んでいます。

そんな藤の地域資源を活用したまちおこしの一環として誕生したのが、「わらびりんごサイダー」です。その年に市内で採れたりんごを果汁に使用し、りんごの特徴である強い酸味を生かした、ちょっと大人向けのサイダー。収穫には、わらびりんごを愛する市民の皆さんが参加。毎年、この時期、わらびりんごが色づく度に、まちには笑顔があふれ、地域への愛着が一層深まっています。

なお、市内で採れるりんごの数が限られているため、サイダーはイベント中心での販売。シュワ〜と口の中ではじける刺激。喉を流れるときの爽快感。ぜひ、ご賞味ください。



桜と入れ替わるように咲く白い花



小ぶりで酸味が特徴のわらびりんご

## 親しみやすいサイダーへ まちぐるみで商品開発

ご当地サイダーの誕生には、販売元であるわらびりんご生産管理団体だけでなく、商業関係者や公募による市民なども参加。「わらびりんご商品化検討会」を立ち上げ、試作品の試飲を行い、活発な意見が飛び交うなか、コンセプトなどを決定しました。

わらびりんごの特徴を出そうと、一般的なりんごサイダーより約3倍の酸味をきかせた、わらびりんごサイダーのキャッチコピーは、「この味、ちょっと刺激的。」。市民が考案したキャラクター「わらびりんご姫」をラベルに使用し、そのかわいらしい姿とは裏腹な刺激的な飲み口が魅力の一本です。また、ほのかに香るりんごの爽やかな香りと、すっきりとした酸味は、「お酒と割ってもよし」との声もあがっています。

こうして誕生したわらびりんごサイダーは、新聞などで多数紹介され、話題に。初めての販売となった平成27年の機まつりでは、限定1500本があつという間に完売となるなど、地域で愛されるご当地サイダーとして人気を博しています。



わらびりんご商品化検討会



わらびりんご姫



価格 200円(税込) 300ml



### 🍏 催して限定販売 🍏

機まつり(8月)や農業関連イベントで限定販売しています。詳細は広報課や市ホームページでその都度、お知らせします。

問い合わせ **わらびりんご生産管理団体**  
(藤市商工生活室内)  
電話 048-433-7750

わらびりんご生産管理団体  
会長 **奥田 光由**さん

## Interview

「藤といえりんご」とイメージされるくらい、わらびりんごを身近に感じてもらえたら——。そんな願いを込めて、親しみやすいサイダーの商品化に取り組みました。今後の課題は、市内の限られた農地のなかで、いかに生産量を増やすか。当団体では、りんご先進地の農家を訪ねたり、接ぎ木方法を研究したりと試行錯誤しながら、苗木の育成に取り組んでいます。

市民に愛されてこそこの藤ブランド。今後も市民の皆さんにアイデアもいただきながら、わらびりんごを使った商品開発を行い、次世代へとつなげていけたらと思っています。



認定品



# 蕨ブランド認定品 お買い物MAP わ



さいたま市



エンジェルわらびー



認定品

1

## IBIZA双子織バッグ

### 株式会社ワイアンドシー

住所 埼玉県蕨市塚越2-11-20  
電話 048-434-1002  
ホームページ <https://futako.saitama.jp/item/ibiza/>  
※蕨商工会議所「蕨双子織特設ページ」イビサ商品一覧  
営業時間 平日 午前9時～午後5時  
※ワイアンドシーでは、販売は行っておりません。  
認定品は上記HPよりご購入いただけます。



認定品

2

## 蕨上田オリジナル着服

### 有限会社上田衣料

住所 埼玉県蕨市塚越2-3-13  
電話 048-442-0295  
ホームページ <http://store.shopping.yahoo.co.jp/tobiwarabiueda/>  
営業時間 平日 午前8時～午後8時  
日・祝日 午前9時～午後8時



## このマークを目印に!

蕨ブランド認定品ロゴマークは、市制施行50周年を記念して制定した蕨市のシンボルマークをモチーフにしています。

緑色は蕨市を、赤色の輪は市民の交流、ふれあい、まちづくりを、翼に見立てた水色は、蕨市の発展、飛躍を表しており、認定品を通じて、蕨を広く発信し、蕨ブランドに携わっている事業者の皆さんの飛躍や発展、認定品をご愛用いただくことで交流の輪が広がることを願っています。

審査にも参加!

## 蕨市PR大使にお聞きしました



フリーアナウンサー  
町 亞聖さん

“蕨ブランド”と聞いてワクワクするものをポイントに選ばせていただきました。自信を持って勧められる蕨市を代表する双子織とわらびりんご。そして物づくりの大切さを伝えてくれる手作りのバッグを長年手掛けてきたIBIZAと粋な職人に愛されている着服の蕨上田。未知の可能性を秘めた蕨硝子。認定して終わりではありません。蕨から全国に羽ばたくように、蕨に住む皆さんにこれらの商品を育てていただければ幸いです!

認定品

3

## 蕨硝子

### 株式会社ブラスト工房

住所 埼玉県蕨市北町3-6-2  
電話 048-475-4839  
ホームページ <http://blastkoubou.co.jp>  
営業時間 平日 午後1時～5時



認定品

4

## 蕨双子織ショルダーバッグ

### 有限会社クチュールカワムラ

住所 埼玉県蕨市中央3-2-9  
電話 048-445-4305  
ホームページ <http://couture-kawamura.com/>  
営業時間 午前10時～午後7時(水曜日定休)



認定品

## わらびりんごサイダー

### わらびりんご生産管理団体

(蕨市商工生活室内)  
電話 048-433-7750  
※サイダーは8月以降の催しで販売。



本文中の価格表示は税込です。また、商品等に関する情報は平成30年12月現在のものです。





【発行】蕨市

【問い合わせ】商工生活室

〒335-8501 蕨市中央5-14-15 蕨市役所2階

電話 048-433-7750

E-mail [shouko@city.warabi.saitama.jp](mailto:shouko@city.warabi.saitama.jp)

平成30年12月